東京外国語大学『語学研究所論集』第 18 号（2013.3）, 121-139

〈研究ノート〉

ウルドゥー語の所有・存在表現
－接尾辞 wālā を用いた表現が表すもの－

萬宮 健策

1. はじめに

ウルドゥー語は，インド・ヨーロッパ語族の中の現代インド・アーリヤ諸語の１つに数えられる言語である．ウルドゥー語には，英語の have に相当する動詞がなく，誰が，何を所有しているのかによって，代名詞属格を用いたり，与格構文を用いたりと，構文が異なる．

本稿では，例文に解説を加えつつ，ウルドゥー語の所有・存在表現の特徴を明らかにしたい. 中でも, 接尾辞 wālā を用いる表現にも焦点を当て, その特徴を考えることとしたい.

2. 先行研究

ウルドゥー語は，言語学的観点からは，ヒンディー語と同一言語であると見なすことができる．実際に日常会話レベルでは，ヒンディー語話者とウルドゥー語話者は相互に相手の言語を意識することなく，意思疎通をすることが可能である．したがって，本稿では特に断らない限り，文法レベルでヒンディー語とウルドゥー語を特に区別しないこととし，言語名は便宜的に「ウルドゥー語」とする．

所有表現に関する先行研究としては，今村(2009, 2010)が挙げられる．どちらも，豊富な例文を挙げつつ，所有表現をカテゴライズし，詳細な分析が加えられている．今村以前の先行研究に関しても今村(2009)が詳述しているので，本稿では省略し，例文の検討を中心に論を進める．

3. 接尾辞 wālā の用法

ウルドゥー語には，wālā という接尾辞がある．本稿で扱う所有・存在表現にも用いられる場合があるため，ここでまずその用法を確認しておく．語尾の ā は，いわゆる形容詞変化[1]をする．この語彙には大きく分けて次の３つの用法がある．

①名詞の後置格形に付加される場合

②形容詞に付加される場合

[1] ウルドゥー語の形容詞のうち，その語尾が ā で終わるものについては，その形容詞が修飾する名詞（あるいは名詞相当語）の性・数・格により，ā の部分が，ē（男性名詞主格複数形，後置格形単数），ī（女性名詞主格，後置格単数），iyāṇ（女性名詞主格複数），ōṇ（男性名詞後置格複数）と変化する．本稿では，この変化のしかたを，「形容詞変化」と呼ぶ.

③不定詞の後置格形に付加される場合

ここでは，その用法を簡単に振り返っておく．

①の用法では, 接尾辞 wālā は, 名詞後置格形にともなって用いられ, 以下の例のとおり，～屋さん，～を所有するものといった意味を付加する．接尾辞 wālā は，先述のとおり，形容詞変化をする．

dukān wālā（店＋wālā＝店主，店員） p^{h}al wālā（果物＋wālā＝くだもの屋） khirkī wālī sīṭ（窓＋wālī＋席＝窓際の席）

次に，用法②では，下記の例が示すとおり，形容詞にともなって用いられ，その形容詞を名詞化する働きをする．指すものの性・数・格により，語尾が ā で終わる形容詞と，それに続く wālā は，形容詞変化する．

acc^{h}ā wālā（いい＋wālā＝いいもの） safed wālā（白い＋wālā＝白いもの） baṛā wālā（大きい＋wālā＝大きいもの）

acc^{h}ā wālā を例に，主格のみの例を挙げれば，以下のとおりとなる．

１）指すものが kāǧaz（紙：男性名詞単数形）：acc^{h}ā wālā

２）指すものが kapṛē（衣服：男性名詞複数形）：acc^{h}ē wālē

３）指すものが kursī（椅子：女性名詞単数形）：acc^{h}ī wālī

４）指すものが tasvīrēṇ（絵：女性名詞複数形）：acc^{h}ī wāliyāṇ

③の動詞不定詞後置格形に続く接尾辞 wālā の例は以下のとおりである．

ānē wālā（来る＋wālā） k^{h}ānē wālā（食べる＋wālā） lik^{h}nē wālā（書く＋wālā）

この用法では,

１）～する人，～するもの（たとえば,「来るもの」,「食べる人」など）を表す（上記３例）.

２）wālā のあとにほかの名詞を伴って名詞句を形成する（ānē wālī gāṛī：来る＋wālā＋列車＝到着しようとする（した）列車）.

３）コピュラ動詞を付加して近未来を示す（例：ham Tokyo pahuncnē wālē haiṇ（我々は，もうすぐ東京に着きます））.

4. 例文の検討

本章では，与えられた例文を順に検討してゆく．なお，日本語をもとにウルドゥー語文を考えているため，本章でのウルドゥー語文には，非文ではないが実際にはあまり用いられない表現が含まれていることを，あらかじめ指摘しておく[2].

[2] 非文でない点は，ネイティブ・スピーカーに確認済みである．

(1) あの人は青い目をしている．

us	ādmī	kī	nīlī	āṇk^{h}ēṇ
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	青い Adj.f.NOM.	f.pl.NOM.
haiṇ				
ある Copula.PRES.pl.				

青い目の人

nīlī	āṇk^{h}ōṇ	kā / wālā	ādmī
青い Adj.f.OBL.	目 f.pl.OBL.	GEN.pp. / 接尾辞 m.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.

目が青い人

vō	jis	kī	āṇk^{h}ēṇ	nīlī
あれ Pron.NOM.	関代	GEN.pp.	目 f.pl.OBL.	青い Adj.f.NOM.
haiṇ				
Copula.PRES.pl.				

上記の例のうち，「青い目の人」については，属格後置詞の代わりに接尾辞 wālā の使用が可能である．ただし，実際の発話では用いられる環境が限定される．たとえば，複数の人がいて，その中から「あの青い目の人」に言及する場合である．また，wālā が用いられる環境では，「人」の省略も可能となる．

なお，「青い」という形容詞は，男性名詞単数主格形を修飾する場合の語尾が ā で終わるため，後に続く名詞の性，数，格によりその語尾が変化する．そのためグロスにもその旨の記述してある．

(2) あの女｛は／の｝髪が長い・あの女は長い髪をしている

us	aurat	kē	lambē
あの Pron.sg.OBL.	女 f.sg.OBL.	GEN.pp.	長い Adj.m.pl.
bāl	haiṇ		
髪 m.pl.NOM.	ある Copula.PRES.pl.		

長い髪の女

lambē	bālōṇ	kī / wālī	aurat
長い Adj.m.pl.	髪 m.pl.OBL.	GEN.pp. / 接尾辞 f.NOM.	女 f.sg.NOM.

髪の長い女

vō	aurat	jis	kē	bāl
あの Pron.sg.NOM.	女性 f.sg.NOM.	関代	GEN.PP	髪 m.pl.NOM.

lambē	haiṇ
長い Adj.m.pl.	Copula.PRES.pl.

(2)の例でも(1)と同様,「長い髪の女」については, 接尾辞 wālī を用いる表現も可能である.

(3) あの人には髭がある.

us	ādmī	kī	mūṇc^{h}	hai
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	ひげ f.sg.	ある Copula.PRES.sg.

髭の男

mūṇc^{h}	wālā	mard
ひげ f.sg.NOM.	接尾辞 m.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.

(3)では,「髭の男」という表現で, wālā のみが用いられている.「髭」が, 人の身体のうち髪や目ほどに分離不可能ではないという点が, 属格後置詞を用いるかどうかの基準になっていると考えられる.「髭」は成人男性の一部のみが生やすものであることを考え合わせると,「(たくさんいる人の中の) 髭の男」という限定的な表現と指摘することができる. この例でも末尾の「男」という名詞は省略可能である.

(4) あの人には（見る）目がある. ／見る目のある人

us	ādmī	kō	acc^{h}ā
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	DAT.pp.	よい Adj.m.sg.NOM.
zauq	hai.		
鑑賞力 m.sg.NOM.	ある Copula.PRES.sg.		

vō	jisē	acchā	zauq
3.sg.NOM.	関代 DAT.	よい Adj.m.sg.NOM.	鑑賞力 m.sg.NOM.
hai.			
ある Copula.PRES.sg.			

抽象概念の所有には, 与格構文が用いられる.

(5) あの人は 22 歳だ.

vō	ādmī	bāīs	sāl	kā
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	22	年 m.sg.OBL.	GEN.pp.

hai
である Copula.PRES.sg.

22 歳の人

bāīs	sāl	kā / wālā	ādmī
22	年 m.sg.OBL.	接尾辞／GEN.pp.	人 m.sg.NOM.

この表現においても，wālā を使う場合は，何らかの限定が加わると考えられる．具体的には，「（20 歳でも 25 歳でもなく）その 22 歳の人」という表現が相当する．

(6) あの人は優しい性格だ．／優しい性格の人

us	ādmī	kī	šaxsiyat
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	性格 f.sg.NOM.
mihrbān	hai.		
優しい Adj.	である Copula.PRES.sg.		

mihrbān	šaxsiyat	kā	ādmī
優しい Adj.	性格 f.sg.OBL.	GEN.pp.	人 m.sg.NOM.

上記の「優しい性格の人」という表現は，ほぼ日本語の直訳だが，日常会話のレベルではこのような名詞句はあまり用いられず，vō mihrbān hai.（彼は優しい）という表現が好まれることを付け加えておく．

(7) あの人は背が高い．

us	ādmī	kā	qad
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	背 m.sg.NOM.
lambā	hai		
高い Adj.m.sg.NOM	である Copula.PRES.sg.		

背の高い人

lambē	qad	kā / wālā	ādmī
高い Adj.m.sg.OBL.	背 m.sg.OBL	GEN.pp. / 接尾辞	人 m.sg.NOM.

この表現でも接尾辞 wālā が用いられる環境は，上記(5)(6)と同様である．

(8) あの人は背が 190 センチもある.

us	ādmī	kā	qad
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	背 m.sg.NOM.

ēk sau navvē sēnṭīmīṭar	hai.
190 センチ	である Copula.PRES.sg.

ウルドゥー語においては,「あの人の身長は 190 センチである」という表現となる.

(9) その石は四角い形をしている. ／四角い（形の）石

vō	patt^{h}ar	caukōr	(šakal
その Pron.m.sg.OBL.	石 m.sg.OBL.	四角 Adj.OBL.	（形 f.sg.OBL.
kā)	hai		
の GEN.pp.）	である Copula.PRES.sg.		

四角い（形の）石

caukor	(šakal	kā)	patt^{h}ar
四角い Adj.	（形 f.sg.OBL.	GEN.pp.）	石 m.sg.NOM.

どちらの表現も,（ ）で囲まれた部分は省略可能である.

(10) あの人には才能がある. ／才能のある人

us	ādmī	kō	salāhiyat
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	DAT.pp.	才能 f.sg.NOM.
hai			
である Copula.PRES.sg.			

vō	jisē	salāhiyat	hai.
3.sg.NOM.	関代 DAT.	才能 f.sg.OBL.	Copula.PRES.sg.

「見る目のある人」と同様に, 抽象概念と言える「才能」を所有する場合も与格構文が用いられる.

(11) あの人は病気だ.

vō	ādmī	bīmār	hai.
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	病人 m.sg.NOM.	である Copula.PRES.sg.

あの人は熱がある

us	ādmī	kō	buxār
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	DAT.pp.	熱 m.sg.NOM.

hai.
ある Copula.PRES.sg.

病気の人
bīmār
病人 m.sg.NOM.

熱がある，風邪を引いた，という自らの意志ではどうすることもできない状況も，ウルドゥー語では，与格構文で表される．前出のとおり，時間，確信といった抽象的概念のほか喜怒哀楽の感情が，この構文で表現される．なお，「病気の人」はウルドゥー語では通常「病人」という 1 語で表される．

(12) あの人は青い服を着ている．／青い服の男

vō	ādmī	nīlē	rang	kē
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	青い Adj.sg.OBL.	色 m.sg.OBL.	GEN.pp.

kapṛē	pahnē huē	hai
服 m.pl.NOM.	着ている PERF.m.pl.	ある Copula.PRES.sg.

青い服の男

nīlē	kapṛōṇ	kā / wālā	mard
青い Adj.OBL.	服 m.pl.OBL.	GEN.pp. / 接尾辞	男 m.sg.NOM.

「あの人は青い服を着ている」という表現は，「着た状態にある」という意味である．

(13) あの人はメガネをかけている．

vō	ādmī	ainak	lagāē huē
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	メガネ f.sg.NOM.	かけた PERF.m.pl.

hai
ある Copula.PRES.sg.

「服を着ている」，「メガネをかけている」という状態表現では，地域により表現差はあるものの，状態を表す動詞が他動詞である場合，常に男性複数形（語尾が ē の形）となる．

メガネの男

vō	jō	ainak	lagāē huē	hai.
Pron.sg.NOM.	関代	メガネ f.sg.NOM.	かけた PERF.m.pl.	ある Copula.PRES.sg.

ここでも，「メガネをかけている」は「メガネをかけた状態にある」という表現である．また，下記 wālā を用いる「メガネの男」も限定的な用法に限られ，通常は，上記表現（メガネをかけた男）が用いられる．

ainak	wālā	mard
メガネ f.sg.OBL.	接尾辞	男 m.sg.NOM.

(14) あの人には妻がいる．

us	ādmī	kī	bēgam
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	妻 f.sg.NOM.

hai
である Copula.PRES.sg.

既婚の人・妻のいる人
šādī šudah
既婚 m.sg.NOM.

妻や子どもなどの親族は，属格後置詞を用いる構文で表現する（下記(15)も参照されたい）．この表現には，上述の身体部位や，所有権がある事物の所有が含まれる．「既婚者」という表現は，男女の区別なく通常このペルシア語からの借用語を用いる．

(15) あの人には３人子供がいる．

us	ādmī	kē	tīn	baccē
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	３	子ども m.pl.NOM.

haiṇ
いる Copula.PRES.pl.

３人の子持ちの人

tīn	baccōṇ	wālā	ādmī
３	子ども m.pl.OBL.	接尾辞	人 m.sg.NOM.

あの人の３人の子ども

us	ādmī	kē	tīn	baccē
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	３	子ども m.pl.NOM.

妊娠している女性

vō	aurat	jō	ummīd	sē
Pron.sg.NOM.	女性 f.sg.NOM.	関代	希望 f.sg.OBL.	ABL.pp.
hai				
である Copula.PRES.sg.				

「あの人には３人子供がいる」という表現では，ヒンディー語の場合子供の人数や性別に関係なく属格後置詞が男性複数形である kē を用いる，と説明する文法書がある[3]一方で，ウルドゥー語では，子供の人数や性別に応じて kā，kē，kī と変化すると説明する．

また「妊娠している女性」の直訳は「（子供がいるという）希望のある女性」という表現で，「妊娠した」という直接的な表現は，日常会話では用いられることが少ない．

(16) タコには足が 8 本ある．

haštpā	kē	āṭ^{h}	pāōṇ	haiṇ
タコ m.sg.OBL.	GEN.pp.	８	足 m.pl.NOM.	ある Copula.PRES.pl.

(17) その飲み物にはアルコールが入っている．

us	mašrūb	mēṇ	alkuhal
その Pron.sg.OBL.	飲み物 f.sg.OBL.	LOC.pp.	アルコール f.sg.NOM.
šāmil	hai.		
含まれた Adj.	ある Copula.PRES.sg.		

アルコール入りの飲み物

alkuhal	wālā	mašrūb
アルコール f.sg.NOM.	接尾辞	飲み物 m.sg.NOM.

「アルコール入りの飲み物」では，「～が入った」という意味で接尾辞 wālā が用いられる．

[3] たとえば，「エクスプレス　ヒンディー語」（田中敏雄，町田和彦著．1985．白水社．p.45）を参照．ただし，ウルドゥー語と同じ変化をする，と説明する場合もあり，必ずしも kē のみを用いるわけではないようである．

(18) あの人はお金を持っている.

us	ādmī	kē	pās
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	近くに Adv.
paisē	haiṇ.		
お金 m.pl.NOM.	ある Copula.PRES.pl.		

お金持ちの人

paisōṇ	wālā	ādmī
お金 m.pl.OBL.	接尾辞	人 m.sg.NOM.

amīr
長者，裕福 m.sg.NOM.

(18)の構文は，ウルドゥー語においてもっとも一般的と言える所有表現である．属格後置詞 kē と「近くに」という意味の副詞を用いて，X kē pās Y hōnā（X の近くに Y がある）という表現になる. この表現がどのような所有に用いられるかについては, 今村(2009,2010)を参照されたい.「お金持ちの人」で提示した wālā を用いる表現[4]は，どちらかと言えば「成金」というマイナスのイメージで用いられがちなのに対し，裕福という 1 語にはそういう意味合いが含まれない.

(19) おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

kyā	tumhārē	pās	kuttā
疑問詞	君の Pron.GEN.OBL.	近くに Adv.	犬 m.sg.NOM.
hai?			
いる Copula.PRES.sg.			

kyā	tumhārē	g^har	mēṇ
疑問詞	君の Pron.GEN.OBL.	家 m.sg.OBL	に LOC.pp.
kuttā	hai?		
犬 m.sg.NOM.	いる Copula.PRES.sg.		

kuttā	pālnē	wālā	ādmī
犬 m.sg.NOM.	飼う INF.OBL.	接尾辞	人 m.sg.NOM.

pās を用いる文が，今現在，近くに犬がいるかどうかを尋ねているのに対し，次の文は,

[4] 「お金」を示す語彙は，単数形の paisē も用いられ，用法に差異はないと考えられる.

家で犬を飼っているかどうかを尋ねている．「犬のいる人」の訳文も「犬を飼っている人」の意味である．

(20) おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

kyā	tumhārē	pās	(apnā)	qalam
疑問詞	君の Pron.GEN.OBL.	近くに Adv.	（自分の）	ペン m.sg.NOM.

hai?
ある Copula.PRES.sg.

kyā	tum	apnā	qalam	rak^{h}tē
疑問詞	君 Pron.NOM.	自分の	ペン m.sg.NOM.	置く PRES.2.pl.

hō?
ある Copula.PRES.sg.

vō	jis	kē	pās	qalam
彼 Pron.3.sg.	関代	GEN.pp.	副詞 Adv.	ペン m.sg.NOM.

hai.
ある Copula.PRES.sg.

(20)で用いられている rak^{h}tē は，他動詞「置く」であり，「（ペンを）自分の近くに置く」という表現である．この表現では，必ずしも自分が今実際に持っていなくともよく，たとえば，自分の家にはペンがあるが，今ここでは持っていない場合にも用いることが可能である．

(21) あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている．

us	ādmī	kē	pās		
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	近くに Adv.		
(kisī	dūsrē	kā)	qalam		
（誰か Pron.sg.OBL.	ほかの Adj.OBL.	GEN.pp.）	ペン m.sg.NOM.		

hai.
ある Copula.PRES.sg.

vō	ādmī	(kisī	dūsrē
あの Pron.sg.NOM.	人 m.sg.NOM.	（誰か Pron.sg.OBL.	ほかの Adj.OBL.
kā)	qalam	rak^{h}tā	hai
GEN.pp.）	ペン m.sg.NOM.	置く PRES.2.pl.	ある Copula.PRES.sg.

(22) あの人は運がいい．／幸運な人

us	ādmī	kī	qismat	acc^{h}ī
あの Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	運 f.sg.NOM.	いい Adj.f.

hai.
ある Copula.PRES.sg.

xušqismat	ādmī
幸運な Adj.	人 m.sg.NOM.

(23) ここは石が多い．／石の多い土地

yahāṇ	pat^{h}rīlā	(ilāqā)	hai.
ここ Adv.	石が多い Adj.	（地域 m.sg.NOM.）	ある Copula.PRES.sg.

pat^{h}rīlā	ilāqā
石が多い Adj.	地域 m.sg.NOM.

(24) その部屋には椅子が 3 つある／3 つ椅子のある部屋

us	kamrē	mēṇ	3	kursiyāṇ
その Pron.sg.OBL.	部屋 m.sg.OBL.	LOC.pp.	３	椅子 f.pl.NOM.

haiṇ
ある Copula.PRES.sg.

3	kursiyōṇ	wālā	kamrā
３	椅子 f.pl.OBL.	接尾辞	部屋 m.sg.NOM.

(25) テーブルの上にスプーンがある．／スプーンのあるテーブル

mēz	par	camac	hai
机 f.sg.OBL.	上に LOC.pp.	スプーン m.sg.NOM.	ある Copula.PRES.sg.

camac	wālī	mēz
スプーン m.sg.OBL.	接尾辞	机 f.sg.NOM.

vō	mēz	jis	par	camac
その Pron.sg.NOM.	机 f.sg.NOM.	関代	上に LOC.pp.	スプーン m.sg.NOM.

hai
ある Copula.PRES.sg.

(26) そのスプーンはテーブルの上にある．／テーブルにあるスプーン

vō	camac	mēz	par
その Pron.sg.NOM.	スプーン m.sg.NOM.	机 f.sg.OBL.	上に LOC.pp.
hai			
ある Copula.PRES.sg.			

mēz	par	camac
机 f.sg.OBL.	上に LOC.pp.	スプーン m.sg.NOM.

(27) そのペンは私のだ．・そのペンは太郎のだ．／私のペン・太郎のペン

vō	qalam	mērā	hai
その Pron.sg.NOM.	ペン m.sg.NOM.	私の Pron.GEN.1.sg.	である Copula.PRES.sg.

vō	qalam	Taro	kā	hai.
その Pron.sg.NOM.	ペン m.sg.NOM.	太郎	GEN.pp.	である Copula.PRES.sg.

mērā	qalam
私の Pron.GEN.1.m.sg.	ペン m.sg.NOM.

Taro	kā	qalam
太郎	GEN.pp.	ペン m.sg.NOM.

(28) 昨日，学校で火事があった．／私は明日用事があります．

kal	iskūl	mēṇ	āg
昨日 Adv.	学校 m.sg.OBL.	で LOC.pp.	火 f.sg.NOM.
lag	gai.		
付く STEM.	行く PERF.f.sg.		

kal	mērā	kām	hai.
明日 Adv.	私の GEN.Pron.1.m.sg.	仕事 m.sg.NOM.	ある Copula.PRES.sg.

kal	muj^{h}ē	kām	hai.
明日 Adv.	私に DAT.Pron.	仕事 m.sg.NOM.	ある Copula.PRES.sg.

(29) （この世には）お化けなんていない．

(is	dunyā	mēṇ)	b^{h}ūt
（この Pron.OBL.sg.	世 f.sg.OBL.	に LOC.pp.）	幽霊 m.sg.NOM.

nahīṇ　hōtā
否定辞　いる PRES.m.sg.

(30) （そこには）英語を話す人もいるが，話さない人もいる．
(wahāṇ)　angrēzī　bōlnē　wālē　b^{h}ī
（そこ Adv.）　英語 f.sg.NOM.　話す Inf.OBL.　接尾辞　も
haiṇ　aur　nah　bōlnē　wālē
いる Copula.pl.PRES.　CONJ.　否定辞　話す Inf.OBL.　接尾辞
b^{h}ī　haiṇ
も　いる Copula.pl.PRES.

(31) 私より英語ができる人は（ほかに／もっと）います．
aisē　ādmī　(aur / mazīd)　haiṇ
このような Adj.pl.　人 m.pl.NOM.　（ほかに／もっと）いる Copula.PRES.pl.
jis　kō　muj^{h}　sē　zyādā
関代　に DAT.pp.　私 Pron.1.OBL.　より ABL.pp.　多く Adj.
angrēzī　ātī　hai
英語 f.sg.NOM.　来る PRES.f.sg.　である Copula.PRES.sg.

(32) ちょっとあなたにお願いがあります．
zarā　āp　sē　darxvāst
少し Adv.　あなた Pron.pl.OBL.　より ABL.pp.　お願い f.sg.NOM.
hai.
ある Copula.PRES.sg.

(33) 冬の雨　東京の家
jāṛē　kī　bāriš
冬 m.sg.OBL.　GEN.pp.　雨 f.sg.NOM.
Tokyo　mēṇ　g^{h}ar
東京　の中に LOC.pp.　家 m.sg.NOM.

「東京の家」という場合，ウルドゥー語では上記表現以外にも，属格後置詞を用いて Tokyo kā g^{h}ar や接尾辞 wālā を用いる Tokyo wālā g^{h}ar という表現も日常的に用いられる．位置格後置詞を用いる表現の方が，より「（たとえば，大阪でも名古屋でもなく）東京にある」という点が強調される．また，接尾辞 wālā を用いる表現は，ほかの場所にも家はあるが，そ

の中の「東京の家」という点が強調される．

(34) 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発　　車の運転　　～の小説

us	kī	tairākī
彼 Pron.sg.OBL.	GEN.pp.	泳ぎ f.sg.NOM.
kuttē	kī	bauṇk
犬 m.sg.OBL.	GEN.pp.	鳴き声 f.sg.NOM.
ātišfišān	kā	d^hamākā
火山 m.sg.OBL.	GEN.pp.	爆発 m.sg.NOM.
gāṛī	calānā	
車 f.sg.NOM.	動かすこと INF.	
--- kā	afsānah	
---の GEN.pp.	小説 m.sg.NOM.	

「運転」という名詞は，通常「動かすこと」という動名詞により表現される．

(35) X さんのお母さん　　机の横に／机の前に／*机に（来て！）　　あの人の次

X	kī	wālidah	
X sg.OBL.	GEN.pp.	母 f.sg.NOM.	
mēz	kē	pās	
机 f.sg.OBL.	GEN.pp.	近くに Adv.	
mēz	kē	sāmnē	
机 f.sg.OBL.	GEN.pp.	前に Adv.	
mēz	par	(āō!)	
机 f.sg.OBL.	の上に LOC.pp.	（来る IMP.2.pl.）	
us	ādmī	kē	bād
その Pron.sg.OBL.	人 m.sg.OBL	GEN.pp.	あと Adv.

上記例文中，「机に（来て！）」という表現は，たとえばレストランで客が給仕に対して用いる表現である．より具体的には，「（注文を取りに我々の）テーブルへ来てくれ！」という状況が想定される． また，ウルドゥー語の指示代名詞には近称と遠称の区別しかない

ため，日本語で区別する「その」と「あの」は条件によって区別しない．

(36) バラの花びら　　果物のナイフ　　紙の飛行機　　チューリップの絵
　　花の匂い　　英文の手紙　　日本語の先生　　井戸の水　　雨の日

gulāb	kī	pank^{h}ṛī	
バラ m.sg.OBL.	GEN.pp.	花びら f.sg.NOM.	
p^{h}al	kē	liyē	cāqū
果物 m.sg.OBL.	GEN.pp.	ため Adv.	ナイフ m.sg.NOM.
kāǧaz	kā	jahāz	
紙 m.sg.OBL.	GEN.pp.	飛行機 m.sg.NOM.	
lālah	kī	tasvīr	
チューリップ m.sg.OBL.	GEN.pp.	絵 f.sg.NOM.	
p^{h}ūl	kī	bū	
花 m.sg.OBL.	GEN.pp.	匂い f.sg.NOM.	
angrēzī	mēṇ	xatt	
英文 f.sg.OBL.	INS.pp.	手紙 m.sg.NOM.	
jāpānī	zabān	kā	ustād
日本の Adj.	語 f.sg.OBL.	GEN.pp.	先生 m.sg.NOM.
kuṇwēṇ	kā	pānī	
井戸 m.sg.OBL.	GEN.pp.	水 m.sg.NOM.	
bāriš	kā	din	
雨 f.sg.OBL.	GEN.pp.	日 m.sg.NOM.	

ここに挙げられた例が示すとおり，ウルドゥー語は主格の名詞（句）を並列させられないため，必ず後置詞を挟むことになる．例文中「果物のナイフ」と「英文の手紙」については，それぞれ「果物を『切るための』ナイフ」，「英語『で書かれた』手紙」という属格後置詞を用いない表現になる．ただし，前後の文脈によっては，先述の「東京の家」をどう表現するか，と同様に属格ではなく，別の格を示す後置詞が使われる可能性もある．

また，上記(36)には，接尾辞 wālā を用いる表現が可能なものもある．たとえば，kuṇwēṇ wālā pānī（井戸水）という表現は

ここでは，（水道水はともかく）井戸水は飲まないで下さい．

yahāṇ	kuṇwēṇ	wālā	pānī	nah
ここ Adv.	井戸 m.sg.OBL.	接尾辞	水 m.sg.NOM.	否定辞

pījiyē.
飲む IMP.2.pl.

という状況で用いられる．

なお，上記の名詞句の例は，すべて主格のみを示しており，これらが後置格になったり，複数形になったりする場合は語尾変化する場合がある．

(37) 妹の花子／社長の田中さん

c^hōṭī	bahin	Hanako
小さい Adj.f.	姉妹 f.sg.NOM.	花子

sadar	Tanaka
社長 m.sg.NOM.	田中

同格の場合は，名詞（句）の並列により表現され，被修飾語があとに来る．この場合，属格後置詞は不要である．

(38) となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって．）

(sunā	hai	ke)	paṛōs
（聞く PERF.m.sg.	である Copula.PRES.sg.	接続詞）	となり m.sg.OBL.

kē	dōst	kē	wālid	kī
GEN.pp.	友人 m.sg.OBL.	GEN.pp.	父 m.pl.OBL.	GEN.pp.

gāṛī	kē	ṭāir	(kā
車 f.sg.OBL.	GEN.pp.	タイヤ m.pl.NOM.	（GEN.pp.

acānak	pankcar	huā	hai)
急な Adj ．	パンク m.sg.NOM.	起きた PERF.m.sg.	である Copula.PRES.sg.）

この例でも，日本語の「の」は，ウルドゥー語の属格後置詞 kā により表されることがわかる．日本語の「の」と同様に，反復使用が可能である．ただし先述のとおり，ウルドゥー語の属格後置詞 kā は，その直後に来る名詞（句）の性・数・格により，kā，kē，kī と変化する．

5. 結びに代えて

本稿では，日本語における所有・存在表現がウルドゥー語でどのように表現され得るかを考えた．先行研究等でも指摘されてきているとおり，ウルドゥー語では英語の have で表現される文が，属格や与格構文となって現れる点が特徴である．それに加えて本稿では，接尾辞 wālā を用いる表現の可能性についても触れた．

今回用いられた例文の表現から判断すれば，発話の文脈に寄るところも少なからずあるが，接尾辞 wālā が用いられる環境は，用いられない場合に比較して，限定が加わることが多く，複数の選択肢の中の特定の「その人（もしくはそのもの）」を示す場合であると指摘できる（例文(1)などを参照）．この接尾辞には多くの用法が認められるので，今後より多くの例文を参照しつつ，研究を継続していく必要があろう．

最後に，本稿執筆に当たり，ウルドゥー語文のチェックおよび貴重な助言をいただいたスハイル・アッバース先生（東京外国語大学特任教授）[5]に謝意を表します．

参考文献

欧文

Masica, Colin P. 1991. “The Indo-Aryan Languages”, New York: Cambridge University Press.

Schmidt, Ruth Laila. 2003. “Urdu” *The Indo-Aryan Languages*, Ed. by Cardona, George and Dhanesh Jain. pp.250-285. New York: Routledge.

Shapiro, Michael C. 2003. “Hindi”. *The Indo-Aryan Languages*, Ed. by Cardona, George and Dhanesh Jain. pp.250-285. New York: Routledge.

和文

今村泰也. 2009. 『ヒンディー語の所有表現再考－類型論的観点からの考察－』　麗澤大学大学院言語教育研究科「言語と文明」第 7 巻 pp.17-39.

---. 2010. 『ヒンディー語・ウルドゥー語の他動詞rakhnaa を用いた所有表現』　「大阪大学世界言語研究センター論集」第 3 号pp.261-284.

鈴木斌. 1981. 『基礎ウルドゥー語』　大学書林

---. 1996. 『ウルドゥー語文法の要点』　大学書林

田中敏雄, 町田和彦. 1986. 『エクスプレス　ヒンディー語』　白水社

[5] パキスタン・イスラーム共和国のファイサラーバード生まれ．母語はパンジャービー語だが，いわゆる第一言語としてウルドゥー語を用いる．1966 年生まれの男性．

略語表

ABL.	奪格	f.	女性形	pl.	複数形
DAT.	与格	m.	男性形	sg.	単数形
ERG.	能格	STEM.	語幹		
GEN.	所有格	PRES.	未完了分詞		
LOC.	位置格	PERF.	完了分詞		
NOM.	主格	FUT.	単純未来形		
OBL.	後置格	IMP.	命令形（二人称複数に対する）		
		INF.	不定詞		

Adj.	形容詞	pp.	後置詞
Adv.	副詞		
Pron.	代名詞		